

一季成り性イチゴ品種の夏秋栽培における特性と高温対策技術

【1 成果概要】

○一季成り性イチゴ品種の苗を4月に定植し、明期9時間の短日処理を6～7月の2か月間実施することで（図1）、8月以降の収量が増えます（図2）。

○それぞれの品種の特性は以下のとおりです（写真1）。

- ・「かおり野」：夏秋期の収量が多く、半月別の収量の変動が小さい。
糖度と果実硬度は時期によって高くなったり、低くなったりする。
- ・「雷峰」：夏秋期の収量が多く、半月別の収量の変動も大きい。
果実硬度が高いが、糖度は低め。
- ・「紅ほっぺ」：10月以降の収量が少ない。糖度は高いが、果実硬度は低め。
- ・「さがほのか」：9月以降の収量が少ない。糖度は高いが、果実硬度は低め。

○通気性不織布（商品名：デュポンタイベック 400WP）をマルチとして用いることで、白黒ダブルマルチよりも培地温を低く維持でき（図3）、7月以降の収量が増えます（図4）。

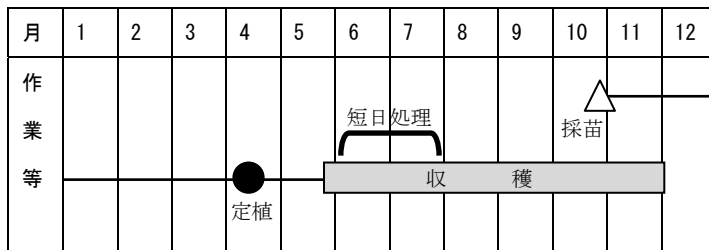


図1 一季成り性品種の夏秋栽培における作型図

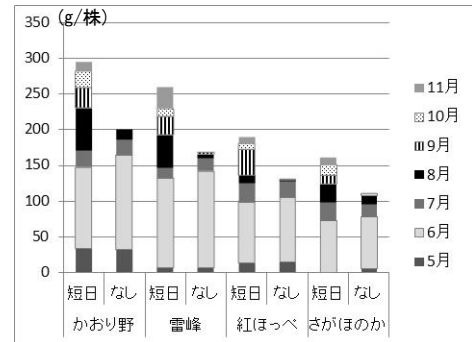


図2 各品種の月別の商品果収量（H25年）



写真1 各品種の果実

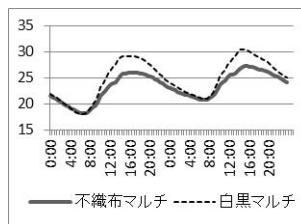


図3 1日の地温推移（H25.6.24～25）

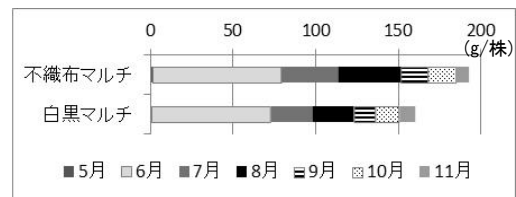


図4 マルチの違いによる商品果収量の比較（さがほのか、H25年）

【2 効果】

- (1) 夏秋期に生食用の一季成り性イチゴを生産することが可能になります。
- (2) 夏秋期の培地温の上昇が抑えられ、イチゴの収量の増加につながります。

【3 留意事項】

- (1) 定植苗は前年秋に採苗し、5℃以上の環境下で越冬させ、育苗期間中に出蓄した花房は株を充実させるために摘み取ってください。
- (2) 「かおり野」の栽培に当たっては、育成者である三重県の栽培許諾（有料）が必要です。

【4 適応対象】

沿岸地域及び県北・高冷地域を管轄する指導機関

担当研究室

技術部 南部園芸研究室

〒029-2206 陸前高田市米崎町字川崎 238-4

TEL. 0192-55-3733

FAX. 0192-55-2093